
国立公文書館長就任の御挨拶

国立公文書館長

加藤 丈夫 かとう・たけお

この度、平成25年6月1日付けで独立行政法人国立公文書館長を拝命いたしました。情報誌『アーカイブズ』読者の皆様一言御挨拶を申し上げます。

私は、平成20年2月に発足した「公文書管理の在り方等に関する有識者会議」の委員を務めてより、公文書管理や公文書館の在り方とその重要性について、大きな関心を抱いておりました。



御承知のとおり、平成23年4月の「公文書等の管理に関する法律」施行により、我が国における公文書管理及び公文書館に関する制度は整備されました。その中で、当館は、この制度を支える中核的機関として、退任された高山正也前館長の優れたリーダーシップのもと、関係各機関の御協力を頂きながら、さまざまな活動に取り組むことができました。

私はこれまで経済界に身を置きながら、「対話」をモットーに行動してまいりました。この情報誌『アーカイブズ』を通して、読者の皆様と当館との「対話」ができることを大変喜ばしく思います。

甚だ微力ではございますが、我が国の公文書管理が、さらに国民一人ひとりに開かれたものとして発展し、国民共有の知的資源である公文書等が現在及び将来の国民に利用されるよう、皆様との「対話」により緊密な連携を図りつつ、職員一丸となって取り組んでまいり所存です。

当館の取組に、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。就任の御挨拶といたします。